

4月16日(火)

心は天に

聖書朗読 マタイの福音書 6:19~21

また、まことのいのちを得るために、未来に備えて良い基礎を自分自身のために築き上げるように。
テモテ I 6:19

この世の大切な宝。しまい込んだ宝にせよ、表に見える宝にせよ、私たちはとても多くの大切な宝をもっています。愛する人たちは大切な宝です。喜んで彼らの写真をお見せしますよ。私はその大切な人たちが皆、いつの日か天にいることを祈ります。子どもたちも、この世の宝であり何より大切なものでしょう。また、既に召天して、私たちを待っている、私たちの愛する人たちがいます。私たちは彼らを再び腕に抱きしめる日を待ち望んでいます。イエス様はこうっておられます。『あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。』(マタイ 6:21) 天国こそ、私たちの宝が全く安全な唯一の場所です。

神の御子は神様の大切な宝です。神様は私たちに、地上の何よりもまずイエス様を上置きに置くようにとおられます。神様がお自身の「大切な宝」を私たちの身代わりとして下さったことによって、私たちは真のいのちを授かったのです。

人の思いは宝に向けられるものでしょう。私の心はイエス様にあり、私の心の願いは、イエス様が永遠におられるところに私も共にいることです。あなたの心はどこにありますか。地上の宝のリストを作ってみてください。そして、そのリストを神様に差し出しましょう。

讚美歌 513

祈り お父様、私たちが永遠にあなた様と共にいる天の故郷を備えてくださり感謝します。イエス様、感謝します。イエス様のお名前によって。アーメン。

コロラド州 プエブロ
キャロル・ローズ

4月17日(水)

難局を乗り越える

聖書朗読 マタイの福音書 6:28~34

空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養ってくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。
マタイ 6:26

数年前、強く激しい風雨を伴った嵐が私たちの町を襲い壊滅的な被害をもたらしました。その嵐の後、我が家の裏庭へ被害を見に行ってみると、物置が隣の家の庭へ吹き飛ばされ、木の枝や木の葉、瓦礫^{がれき}があちこちに散乱していました。けれども、葉をすべて失った一本の木に目をやると、そこには荒れ果てた姿の小さな鳥の巣がありました。さらに驚いたことに、マネシツグミ(編注:北米・メキシコに棲み、他の鳥の鳴き声等を巧みにまねる)の母親と小さな2羽のひながその巣を覗き込み、そして私を見下ろしていたのです。私は彼らがああ嵐の中を生き残ったことに驚きました。

神様はイザヤ 41:10で『恐れるな。わたしはあなたとともにいる。』とおられます。正直なところ、私は家の中から嵐を見て恐れを抱いていました。けれども、これまでに経験した多くの嵐の際、神様がいつも私や子供たちを守ってくださったことを思い出し、心に平安を得ました。また、全能なる神様が、私の家のすぐそばで母鳥やひなたちを見守ってくださっているということに気付かされました。

神様の変らぬ御愛、ご自身の造られたすべてのものに神様が心を留めてくださることを感謝します。

聖歌 347

祈り 天のお父様。私たちが人生の荒波にもまれるとき、見守ってくださり感謝します。あなた様が私たちの為にあらゆることを成してくださることを感謝します。何よりあなた様の御子を有難うございます。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ヒューストン
ジェイン・ポー・マッシー

4月18日(木)

求め、捜し、たたきなさい

聖書朗読 マタイの福音書 7:7~11

求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。 マタイ 7:7

神様は私たちに良いものを与えようと思っておられます。イエス様はそうした神様からのプレゼントを頂くための秘訣を語っておられます。イエス様がここで語られた言葉(編注:アラム語)に含まれている力とか継続する行為の意味は、英訳では必ずしも表現されていません。でも、求め、捜し、たたいて、神様からのプレゼントをいただくことについて、イエス様が言っておられることを理解するのに、文法的な解釈は要りません。

子どもの頃、ほしい物をねだってやったことを覚えているでしょう。子が親に何かを強く求めている様子を思い浮かべてみましょう。子を愛する親は、そのお願いに即座に応じないこともあるかもしれませんが、けれども、あまり嬉しくない、役に立たない、あるいは危険なものを子に与えることは決してないでしょう。

子どもたちは多くの場合、初めに「ダメ」と言われても、それを最終的な返事とはみなさず、繰り返し「求め」、「捜し」、「たたく」でしょう。「求める」たびに「OK」という返事を期待しています。私たちも神様に何かをお願いするとき、愛なる創造主は私たちに、ご自身との関係や私たちの周囲の人たちとの関係を深め強くするものを与えたいと思っておられるということをおぼえておきましょう。

讚美歌 26

祈り 親愛なるお父様。あなた様の御愛を疑ってしまうことをお赦しください。あなた様に信頼し、あなた様のお与えくださる惜しみないプレゼントを真心こめて受け取らせてください。力あるイエス様の御名によって。アーメン。

アイオワ州 クレグ・ホーン

ロバート・ブレア

4月19日(金)

堅固な土台の上に

聖書朗読 マタイの福音書 7:24~27

雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それでも倒れませんでした。岩の上に建てられていたからです。 マタイ 7:25

浜辺で過ごす一日に優るものはありません。ペリカンが猛スピードで降下して水中に潜り込みエサを捕らえる様子や、イソシギが浜辺や潮溜り^{しおだま}を歩く姿、そして子供も大人も皆、広い空に色とりどりの凧をあげる様子。浜辺ではそれらを見ながら楽しいひと時を過ごします。

我が家の子どもたち、そして今では孫たちもみな砂の城を作るのが大好きです。砂の城はシンプルな作りのもものありますが、とても複雑で念入りに作られたものもあります。けれども、どれほど時間と労力を掛けて作っても、それは永遠に立ち続けることはないことを私たちは知っています。数時間もすれば崩れ、潮に流されてしまうものです。それらは一時的なものに過ぎないのです。

私たちの人生もこのような砂山、すなわち、立派な計画であっても、もろい物で作られ不安定な土台に建てられたもので、すぐいっぱいになってしまいます。このように作られたものは、結局多くの「修繕」を必要とし、修繕した後の片付けに手間もかかり、また、気持ちもとても落胆してしまいます。私たちは、イエス様のみことばに耳を傾け、それに基づいて行動するとき、堅固な土台の上に立つことが出来ます。もし私たちがみことばをただ聞くだけで忘れてしまい、それに従うことを選ばなければ、最後には朽ちてしまう砂の山に立つこととなります。堅固な土台の上に立ちましょう。

讚美歌 280

祈り 親愛なる主よ。私が揺らぐ土台の上に立っているとき、それに気づかせてください。イエス様の堅固な土台の上に私を導いてください。この堅固な土台を次の世代へと受け継ぐものとしてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

サウス カロライナ州 コロンビア / マーク・ヤング

4月20日(土)

イエス様を信ずる為に

聖書朗読 マタイの福音書 9:1~8

そのうえ神も、しるしと不思議とさまざまな力あるわざにより、また、みこころに従って聖霊が分け与えてくださる賜物によってあかしされました。 ヘブル 2:4

何か驚くこと、珍しいこと、思いもよらないこと、あるいは、簡単に説明できないような出来事を「奇跡」という言葉で表現することがあるでしょう。聖書では、「奇跡」と、それに関連した「しるし」、「不思議」ということばは、異なった特別な意味をもっています。聖書のこれらのことばは、この世の自然な秩序に神様が霊的な関与をされた時の出来事を表わしています。

イエス様が水をぶどう酒に変え、病の人を癒し、嵐を静め、死から人を蘇^{よみがえ}らされたこと、これらの出来事は奇跡と思われるものでした。なぜなら、こうした出来事は超自然的なことであったからです。聖書の奇跡は見世物ではなく、特別な目的がありました。聖書朗読箇所にあるように、奇跡は、神様のみことばが証しされ、みことばを確信させるためのものだったのです。

イエス様は、宗教指導者たちがご自身を理解出来なかったため、こう言われました。『人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに知らせるために。』『それから中風の人に、「起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい」と言われ』ました。イエス様はご自身が神の子であることと、それゆえに罪を赦す権威を持っておられることを、中風の人を癒す奇跡を行うことによって示されました。こうしたしるしや奇跡を通して、私たちの信仰は強められ揺るがないものとなり、私たちの心が、あらゆるものに対する権威を持っておられるお方を礼拝するようになるのです。

讃美歌 76

祈り お父様、あなた様の奇跡を通して、私たちの信仰が強くされるということ覚えさせてください。この信仰を他の人たちと分かち合うことが出来るようにしてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

サウス カロライナ州 アーモ / フィリップ・アイクマン

4月21日(日)

イエス様だったら

聖書朗読 マタイの福音書 10:37~42

兄弟愛をいつも持っていなさい。旅人をもてなすことを忘れてはいけません。こうして、ある人々は御使いたちを、それとは知らずにもてなしました。

ヘブル 13:1~2

ある町の家族を訪れた時のことです。私は朝の散歩の途中で、ある家の垣根に寄りかかり携帯電話で道順を調べていたところ、突如後ろから「大丈夫ですか。」と声を掛けられました。振り返ると、若い女性と彼女の息子さんがおり、車道から家に入ろうとしているところでした。私は「大丈夫です。携帯でちょっと調べ物をしようと立ち止まっていたところです。」と答えました。私は、彼女が私を気に掛けてくれたことを感謝しました。彼女はさらにこう言いました。「私はイエス様だったらどうされるか、いつも考えているんです。」これを聞いて、私は考えさせられました。

助けを必要としている人に会った時、私は彼らと関わらないように目を逸らしていないだろうか。それとも、彼らを励まし、物理的にも支援をし、霊的な導きを彼らに与える伝道の機会としているだろうか。

あの日、私に大丈夫かと尋ねてくれたあの女性は、御使いたちをそれとは知らずにもてなす機会や、イエス様のお名前によって、一杯の冷たい水を飲ませる機会を逃したくない方だったのでしよう。私は周囲の人たちを気に掛けているだろうかと考えさせられました。

讃美歌 393

祈り 親愛なる天の神様。この世にあって、私があなた様の憐みの目と慈愛の手となることが出来るよう私を強めてください。周りの人を、避けるべき問題ある存在と見るのではなく、あなた様の造られた大切な魂を持つ人々と見ることが出来るよう私の目を開いてください。私を愛し、お救いくださったことを感謝します。主なるイエス・キリストによって。アーメン。

テキサス州 アマリロ / ダニー・マイズ